

オーストラリア・レポート 2021 年 6 月

情報は日々アップデートされますので最新情報については随時確認が必要です。クリエイトジャパンまでお気軽にお問い合わせください。

CRe8Japan
クリエイトジャパン・オーストラリア
www.cre8japan.net
info007@cre8japan.net

6 月 30 日 (水) クリエイトジャパンブログ

アストラゼネカワクチンが 40 歳以下も含め年齢を問わず接種できることに！

シドニーでの感染者の中に国内線エアクルーがいたこと、ニューサウスウェールズ（NSW）州の感染源場所を最近訪れていた人々から他州にも感染が広まり、西オーストラリア州、ノーザンテリトリー州、クイーンズランド州も短期間のロックダウンに突入しました。爆発的な感染ではなく、ロックダウンも 3 日程度と短いのので、早急の収束を期待したいところです。

29 日のニューサウスウェールズ（NSW）州（州都シドニー）の PCR 検査数は 24 時間で 67,000 人、その内陽性者は 19 人でした。ロックダウンの効果が出てきているように見受けられます。NSW 州の感染者は 6 月 30 日時点で合計 186 人、国内全体で合計 294 人となっています。

ところで昨日のブログで「ワクチン接種の加速化」が今後のキーワードになると書きましたが、それに関して良いニュースがありました。

オーストラリアはアストラゼネカ（AZ）とファイザーの 2 種類のワクチン接種でスタートしましたが、開始まもなく 40 代の女性が AZ 接種後に血栓が生じ、それが原因で死亡するケースが発生しました。その結果を受け政府は、50 歳以上は AZ 推奨、50 歳未満はファイザー推奨とし、6 月中旬までそのように実施していました。ところが 50 歳以上でも AZ 接種後に血栓が生じ死亡するケースが発生したため、急遽 AZ は 60 歳以上推奨と政府が発表し、国民は混乱することになります。そして最終的に政府は昨日、血栓が生じて死亡するケースより、コロナに感染して重症化するケースの方が圧倒的に確率が高いとし、AZ は 40 歳以下も含めて年齢を問わず希望する全ての国民に接種できるようする、と発表しました。ただし医師の間では 60 歳以下への AZ は推奨できない、という意見もあがっています。これまでコロナを封じ込めていたオーストラリアはワクチン接種が進んでいませんでしたが、今回のシドニーのクラスターにより市民の間では感染への不安が高まっています。

ワクチン接種に関して、国民は政府の決断に振り回されることになりましたが、現在はワクチン接種センターには長蛇の列ができ、ワクチンの加速化が急速に進むことになったと思います。実を言うと筆者はすでに 1 回目の AZ を接種しており、年齢的に

2 回目はファイザーが適用されるのですが、1 回目と 2 回目は同じワクチン接種が必須ということで、2 回目の AZ 接種を少し心配していました。今回の決定で安心して 2 回目の接種ができそうです。日本もワクチン接種の加速化が進みますように！

6月29日（火）クリエイトジャパンブログ

シドニーのロックダウンは経済的に大きなダメージを受けますが、感染力の強いデルタ株を封じ込めるには必要な政策だと考える人が多いと思います。ロックダウン期間 2 週間の状況を見極める必要がありますが、感染を抑えることができれば今後の経済成長や国境再開に向けての加速化が期待できると思います。

ヨーロッパで開始される「デジタルワクチンパスポート」を活用した隔離なしの国境を越えた旅行は、旅行業界やインバウンド業界にとってはとても良いニュースだと思います。オーストラリアの観光相やスキーリゾートの CEO もすぐこのニュースに反応しました。オーストラリアはヨーロッパでの状況や様子を注視し、この制度が機能するようであれば早急に導入を検討するのではないかと思います。その相手国として日本がいつどのタイミングで入るか？注目したいところです。

話は変わりますが、ロンドンで開催されている全英テニスオープンをご覧になっていますか？ご覧になった方はお気づきかと思いますが、観戦人数が制限されているとは言え、結構な人数の観戦客がマスクなしで例年と変わらず試合を楽しんでいます。気になってウインブルドンのサイトを調べたところ、入場するには、2 度のワクチン接種を完了してから 14 日間経過している証明書か、48 時間以内の PCR 検査陰性証明を提示する必要があるとのこと。つまり選手も関係者も観戦者も、感染を恐れることなく安心して大会に臨めるということです。さすが！と思ったと同時に「国境再開のキーポイントはやはりワクチン接種だ」と心躍る思いがしました。

もう一つグッドニュースがありました。今回のシドニーのロックダウンですが、その発端となったのがボンダイ・クラスター（シドニー東郊のボンダイエリアで発生した集団感染）です。そこにいた一人が感染に気づかずシドニー南西部で開かれたバスデーパーティーに参加したのですが、参加者 30 名の内 26 人が感染し、感染しなかった残り 4 名は全てワクチン接種済みだったと NSW 州政府が発表しました。この事実がワクチン効力の証明となり、接種を加速化させる要因になるのではないかと思います。

今後日豪の国境再開に向けたキーワードは「ワクチン接種の加速化」と「ワクチンパスポートの導入」ではないかと思います。

6月28日（月）現在の情報

シドニーでの感染者が合計 80 名を超えたことから、州政府は 26 日（土）午後 6 時からシドニー大都市圏全域に対して 2 週間のロックダウンを実施。本日 6 月 28 日発表 24 時間以内のニューサウスウェールズ（NSW）州の市中感染者数は 30 名。感染の可能性がある施設、店舗、公共交通機関などを感染者のチェックインアプリ*等で洗い出し、その特定の場所・時間にいた全市民に対し PCR 検査（無料）を要請し、26 日には 5 万 5 千人以上が検査を受ける。その後ノーザンテリト

リー（州都ダーウィン）や西オーストラリア（州都パース）、南オーストラリア（州都アデレード）でも感染者が確認され、それぞれの州で独自の行動制限が実施される。

*チェックインアプリ：レストラン、パブ、映画館、遊戯施設、スーパー、ショッピングセンター、小売店、運動施設等に入出店する際に、客が店舗や施設の QR コードを専用アプリで読み取る。全ての小規模・大規模事業者はチェックイン QR コード導入が義務化されている。

来週からヨーロッパ 14 カ国で「ワクチンパスポート」（ワクチン 2 回接種済みの人に発行されるデジタル証明書）を使った隔離なしの旅行が開始されることを受け、テハン観光相は「オーストラリアもこの仕組みを利用し自由に旅行できるようになる可能性がある」とコメント。

ビクトリア（州都メルボルン）のロックダウンが解除されたことから、スキーリゾート大手マウントブラーとマウントスターリングリゾートのベネット最高経営責任者が、ビクトリア州住民に最近まで課していたスキーリゾートに入るための PCR 陰性証明の提出は、必須から推奨に格下げすると発表。また「ワクチンパスポート」は今後の COVID 時代における旅行再開のシグナルになる可能性がある」とコメント。

6月25日（金）現在の情報

シドニーでのデルタ株感染者が 60 名を超えたため、シティ中心を含む 4 つのエリアで 25 日（金）の夜中から少なくとも 1 週間ロックダウンを実施することを州政府が発表。この 4 つのエリアの住人及び労働者はロックダウン中ステイホームが義務付けられる。リモートで働けない、リモートで教育を受けられない、医療や介護による事由、生活必需品の買い出し、少人数での運動、の理由や目的であれば外出可。

6月23日（水）現在の情報

シドニー郊外でデルタ株のクラスターが発生し 20 名以上の感染者が確認されたことで、屋内施設でのマスク着用義務が一部の特定エリアからシドニー大都市圏（全域）に拡大・適用される。

ニュージーランドとの隔離なしの旅行（NZ Travel Bubble）が一時的に（72 時間）中断。

6月22日（火）現在の情報

東京オリンピックの観客は最大 1 万人に決定したこと、大会開催中に緊急事態宣言が発令された場合は無観客もあり得ること、など日本のニュースを各テレビ局が配信。

シドニーで数ヶ月ぶりに市中感染者が確認されたことで、6月18日（金）からシドニー広域エリアの公共交通機関内と感染者が確認されたエリアでは公共施設内でのマスク着用が義務付けられる。感染元は国際線クルーをホテルまで送迎したバスドライバーであることが判明しており、その妻も含めた行動ルートを追跡アプリで徹底的に洗い出し、感染者が乗車していたバスや電車、プラットフォームや施設などを特定・公開し、各特定場所・各特定時間にいた場合は直ちにPCR検査を受けなければならないと通達。さらに濃厚接触者に関しては直ちに保健局に電話連絡するとともに、検査の陽・陰性にかかわらず、14日間の自主隔離を義務付ける。

6月18日（金）現在の情報

NZへのスキー旅行が人気の中、オーストラリア国内のスキーリゾートは72時間以内のPCR検査の陰性証明がないと入れないことを発表。

6月15日（火）現在の情報

メルボルンのロックダウンはその後感染者の拡大が抑えられていることから既に解除済み。6月15日発表の市中感染はゼロ。

6月2日（水）現在の情報

大手テレビ局「チャンネル9」は大々的なワクチン接種のプロモーションを開始し、ワクチン接種を積極的に促進。カンタス航空は2回ワクチンを接種した人を対象にキャンペーン（マイル1000ポイントやフライトバウチャーをプレゼント）を行うことを発表し、7月からのスタートにむけて現在準備中。また、抽選で10人にメガ・プライズ（最大家族4人まで、カンタスとジェットスターのフライトネットワークならどこでも1年間利用できる権利）をプレゼントし、ワクチン接種を促進することで飛行機での安全な移動を目指す。

観光相がNZ Travel Bubble（ニュージーランドへの自由な旅行）に続く次のディスティネーションは、タヒチやニューカレドニアなどのパシフィック・アイランドになるだろうとの見解を発表。大手テレビ局「チャンネル7」はそれに続くディスティネーションとして、ワクチン接種が進むイギリスとアメリカではないかとニュース配信。

ビクトリア州政府がロックダウンにより影響のあるビジネスに対しての経済支援を表明。ロックダウン後も新たな感染者が日々数名ずつ確認されていることを受け、ロックダウンを更に1週間延長し6月10日夜中までとすることを決定。